

『愛しき駄文具』

きだて たく 著

「文房具には、便利なのと駄目なのがあります。」

実はそうなんです。実用品重視・便利さを求める世の中ですが、書きやすくないペンやつつい遊んでしまいたくなるメモ、本当に需要があったんだろうか、と疑いたくなる駄目な文房具も存在しています。

不便でほんくら、でも楽しい。

愛しき駄文具とりそろえている一冊です。

紹介者 D

『こんな樹木葬で眠りたい』

上田 裕文 著

「まだ若いしよくわからない」

そう思っている人にこそ読んでほしい、珍しいお墓の新提案。

紹介者 Y

『産声のない天使たち』

深澤 友紀 著

生きられなかった我が子でも

「私が母親だ」と胸をはっている方々をみて、心が切なくなりました。

紹介者 K

『ムーミン谷のひみつの言葉』

富原 眞弓 著

小説とはひと味違う、ちょっぴりおとなのムーミンの世界。

短い文に込められた感動の一瞬が、たくさん詰められています。

紹介者 M

『七月に流れる花』

恩田 陸 著 酒井 駒子 絵

招待された城では不思議なルールが存在する。少女が体験する長く奇妙な「夏」の物語。

少年の視点から描かれた『八月は冷たい城』も合わせて読んでほしい。

紹介者 S

今年も残り僅かとなりました。

お気に入りの本を片手に残りの2018年、本とともに過ごしてみるのはいかがでしょう。

編集者 S・M・K

『もしもあの日に戻れたなら、
初恋の続きをもう一度。』

miNato 著

もし、好きな人に思いを告げられないまま
その人がいなくなったらどうしますか？

最初から最後まで感動する話が続き、
泣ける話が好きな人にオススメです。

紹介者 M

『ありえないほどうるさいオルゴール店』

瀧羽 麻子 著

沢山の悩みや苦しみを抱いた様々な人たちが訪れる、
北の町でひっそりと営まれるオルゴール店での物語が
幾つも展開されたあたたかさを感じられるやさしい一冊です。

紹介者 S

『奇跡の本屋をつくりたい：くすみ書店のおやじが残したもの』

久住 邦晴 著

日本でいちばん有名な本屋は札幌にあった。

閉店間際失意の底にあった書店が日本一にまでいたった理由。

その裏にあるただならぬ努力と苦悩。

くすみ書店店長の久住邦晴本人が書き残した奇跡の実話。

紹介者 O

